新総長に仲谷善雄氏選出

投票を控えた会場の様子。投票開始後は議場閉鎖され選挙が厳正に行われた。

11月4日、立命館朱雀キャンパス・立命館アジア太平洋大学（APU）にて、学校法人立命館総長選挙「総長候補者選挙人会」が行われた。

午後12時30分より行われた第1次投票の結果、新総長として仲谷善雄氏（60）が選出された。投票総数は411票、有効投票数400票（無効2票）だった。

開票結果は、仲谷善雄氏が247票、吉田美喜夫氏（69）が153票、松原豊彦氏（63）は9票。

開票の結果を受け、11月30日の理事会で正式に総長が決まる。新総長の任期は2019年1月1日から2022年12月31日まで。

新総長に選出された仲谷善雄氏

今回の総長選挙では、候補者の松原氏が「現職総長の吉田氏の再任が望ましい」と所信表明の中で明らかにしていた。そのため選挙戦は実質、現職の吉田氏と仲谷氏の一騎打ちの情勢であった。（吉武）

仲谷 善雄 氏

なかたに・よしお 1981年大阪大学人間科学部人間科学科卒業。1989年神戸大学で学術博士を取得。三菱電機入社後、スタンフォード大学で客員研究員に就任。2004年開学の本学情報理工学部の教授に着任後、同学部長などを歴任。学部再編を成功に導いた。2018年に学校法人立命館副総長・学校法人立命館最高情報責任者に着任。研究分野は防災情報システム、人工知能、ヒューマンインタフェース、認知工学、思い出工学、感性工学。

辰己、ドラフト1位で楽天へ

自身を表す言葉に「野球バカ」を掲げる辰己涼介選手（産社4）

プロ野球ドラフト会議が10月25日、東京都内のホテルで行われ、本学の辰己涼介（産社4）は東北楽天ゴールデンイーグルス、阪神タイガース、読売ジャイアンツ、福岡ソフトバンクホークスの4球団から1位指名され、抽選の結果、東北楽天ゴールデンイーグルスが交渉権を獲得した。辰己は、球団から次々と名前を呼ばれると、そのたびに笑みを浮かべていた。楽天との交渉権が確定すると、ほっとしたような表情を見せた。

会見では「最高の評価をしていただいて心から嬉しい。ここまで評価して頂けるとは思わなかったので嬉しい気持ちでいっぱい。来年には、プロ野球選手としてユニフォームに袖を通していると考えるとワクワクする。ここからが勝負だと思うので、チームの顔になれるよう日々努力したい」と述べた。

野球部員に祝福される辰己選手

辰己は関西学生野球リーグで通算122安打を放っており、これは田口壮氏（関学大）のもつリーグ歴代最多安打記録にあと1本に迫る堂々たる数字である。楽天球団は「辰己はプロの中でもトップクラスの足と肩を持っており守備面で期待している。打撃面でもパワーを兼ね備えているので、ヒットを打つだけではなく様々なことができるバッターだ」と評価している。

目標には新人王、トリプルスリー、そして2000安打を掲げている。「今年中に体の疲れを取って、怪我をしない体作りとプロのキャンプについていくことができるだけの体力を付けたい」と先を見据えていた。

本学出身の選手のドラフト指名は、昨年の東克樹（横浜DeNA）、山足達也（オリックスバファローズ）に次ぐ2年連続であった。

OIC祭典 開学4年目の祭

オープニングを飾ったバトントワリング部と交響楽団のコラボステージ

10月14日、3キャンパスで開催される本学学園祭が、大阪いばらきキャンパス（OIC）で幕を開けた。

バトントワリング部と交響楽団のコラボステージがオープニングを飾ったOIC祭典。模擬店は多くの人で賑わい、ステージや団体企画も盛況で、来場者数は7000人を超えた。秋晴れの下、学生のみならず多くの地域住民が訪れるOICならではの学園祭となった。

孫が経営学部に通っているという男性は「学園祭を機に初めて訪れたが、綺麗なキャンパスで感心した」と話す。ステージでダブルダッチを披露した女子学生（国関2）は「たくさんの人に見てもらえて気持ちよかった」と語った。

学園祭実行委員長の鶴田大輝さん（法4）は「今年は天候に恵まれ、様々な企画で来場者の方に楽しんでもらえた。次の衣笠祭典・BKC祭典でも安全に気をつけて運営したい」と語った。

学園祭は11月11日に衣笠キャンパス、11月25日にびわこ・くさつキャンパスで開催される。

学園祭特集は8面

海神

今年のノーベル生理学賞・医学賞が発表され、京都大学特別教授の本庶佑氏が受賞を果たした。免疫の働きの低下を防ぐがん治療法を発見し、がん治療の可能性を大きく広げたことが高く評価された▼本庶教授の発言は興味深いものが多い。「世の中のことは嘘が多い。教科書がすべて正しかったら、科学の進歩はない。基本は人が言っていること、教科書に書いてあることをすべて信じない。なぜかと疑って行くことが重要だ」▼もちろん教科書を否定し、まったく読むなと言っている訳ではない。教科書をよく吟味し、理解した上での話だ。上から降ってきた山のようにある情報を安直に信じるのではなく、自分の力で真理を探究し、自分の考えを大切にすることの重要性を教授は説いているのだ▼自分を振り返ってみてほしい。普段のニュースや新聞の情報をすべて正しいものとして見てしまっていないだろうか。文献を鵜呑みにしていないだろうか。権威ある人物が書いた書物や、著名な学者の言説を根拠として正当性を主張する人もいるが、権威に頼る意見はおよそ自分の考えとは言えない。もし権威に誤りがあれば一瞬にして自分の主張が崩壊してしまうという危うさも孕む。すべての物事に疑いの目を持って見ること、物事を簡単に信じないことは学生にとって最も重要な力だ。そもそも大学とはそういう場所である。単位を取ることで精一杯の学生にとっては耳が痛い話であろうが。（西山）

立命館大学新聞

発行所 立命館大学新聞社
発行人 吉武 莞
京都市北区等持院北町 56-1
立命館大学学生会館 BOX316
TEL｜075-465-8253（内線 2160）
BKC支局 滋賀県草津市野路1-1-1 セントラルアーク4F
OIC支局 大阪府茨木市岩倉町2-150 A棟3F Student Lounge 内
www.ritsumeikanunivpress.com

立命館大学新聞社 RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
立命館大学新聞社 検索
TEL 075-465-8253
MAIL info@ritsumeikanunivpress.com
Twitter @Rits_Press
Facebook www.facebook.com/ritspress/

10・11月合併号

本号の紙面

新総長に仲谷氏…1・2面
全学協議会開催 …3面
本紙の創刊はいつ？…4面
学園祭特集 …1・8面

8・6

2018年度 秋季特別展
「8月6日」
会期 11月6日(火)～12月16日(日)
時間 9:30～16:30(入館は16時まで)
会場 国際平和ミュージアム 中野記念ホール
立命館で学ぶ人・働く人は無料です
詳しくはミュージアムHPへ
平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築プロジェクト成果展示

関連企画
立命館大学 国際平和ミュージアム Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University
ワークショップ1
戦争体験『語り』の継承
―広島、長崎、沖縄、国立を事例として―
講師 外池 智氏（秋田大学教授）
11月17日(土) 15:00～17:00
ワークショップ2 くにたち原爆・戦争体験伝承者講話
12月8日(土)14:00～15:00
いずれも国際平和ミュージアム2階会議室

社説　立命館は誰のもの？

今回の全学協議会が協議の場ではなく、質疑応答の場に終始してしまったのは残念だ。学友会側が提示した問題点は、しばしば常任理事会側の論点のすり替えによってうやむやになり、議題の最後を締めくくる吉田総長の論旨のすりかえにより雲散霧消した。舞台の光に当たった問題は、再び楽屋裏に戻され、その解決は後に持ち越しされた。

学生が求める性急な改革と学園側が自己の保身に努めた漸進的な改革には、根本的な齟齬がある。しかし学生側の主張が通りにくいのは、キャンパスや学部の増加により、現在の学園が、大きな組織になってしまったことにも原因がある。吉田総長が口を開けば「議論していく」「時間がかかる」と言っていたことからも、組織が柔軟さを欠いていることが伺える。２０２０年以降の学費が未決定であるのもうなずける。

禁煙問題について吉田総長は、現在の喫煙率が４％に到達したのは長年の不断の努力の成果だと語っている。禁煙化という時代の動向を学園が成果とするのは問題であり、何よりもこの言葉は、問題を先送りする本学園の体質を表している。

Ｒ２０３０という未来志向で具体性に乏しい政策も、現状からの逃避である。動作の鈍い大組織であるため、なるべく抽象的な方針を掲げる必要がある。しかし現実の具体的な問題を捉えず、全体の方針を決定することができるのだろうか。

教育の質の向上という議題で吉田総長は、教育改革の成果に関するデータの公表から教育の実態を把握するのではなく、自主的に実態を把握すべきだと述べている。教育の現状から目をそらし、独善的な教学改革を行っていくような趣旨の文言に捉えられる。もしそうであるならば、立命館はこれからも未来に投射された空漠たる幻想の内に存在し続けることになろう。

全学協議会は本来、今後の立命館を発展させていく上で、有意義にすべき協議である。それを、学園側のただの弁解の場にさせないためには、学園側が自身の勝手な構想に耽るのではなく、学生や職員などの意見を傾聴し、直接反映するような体制を構築しなければならない。

ReQuestion 2018

学生主催の総長候補者質問会を開催

学園の現状、未来を語る

11月1日、立命館総長選挙を前に、学生主導の候補者公開質問会「ReQuestion 2018」を学友会中央常任委員会、立命館大学放送局（RBC）、CUESと本紙の4者共同で開催した。

総長の候補者として選出されていた、仲谷善雄氏、松原豊彦氏、吉田美喜夫氏の3名を招聘し、主催者質問2問に加え、10月17～24日にWEBで学生に対して募集を行った質問のうち、3問を問いかけた。

主催者質問の1問目「今回の総長選挙の『論点』は何だと思うか」という問いに対し、仲谷氏は、立命館の将来、チャレンジ精神溢れる総長であるかを挙げた。松原氏は、現職の吉田氏の再任が望ましいとした上で、教学の質の向上、キャンパス環境の整備、学費と財政の政策を論点に挙げた。吉田氏は、総長が先頭に立ち、教学条件を向上させていくことが最も重要だと語った。

新たな総長の候補者3名が登壇した

主催者質問2問目は「次期総長に求められる資質は何か」というものであった。松原氏は、総長、学者としての魅力、そして迅速果断なリーダーシップを資質とした。吉田氏は自身の4年間の総長経験を挙げ、総長としての資質は備わっていると言明した。その上で、総長に必要なのは、健康、学生を大事に考える心持ち、謙虚な姿勢、困難から逃げないこととした。仲谷氏は、決断力と他人の意見を聞きまとめる力を総長の資質とし、自身の経験から照らして、自分は総長の役割を果たしていけると語った。

続いて学生から質問を問いかけた。1問目「立命館大学の現状についてどのように考えているか」という質問に対し吉田氏は、本学が日本有数の大規模大学に成長したことを挙げ、教育の質を向上し、社会から付託された大学としての責任を果たすべきだと語った。仲谷氏は、本学がSGUにも選ばれ、私学で3位の研究補助金を受給していることを挙げた一方で、実際それらの活動に学生が参加し、知的生産の場になっているかどうかを課題とした。「最先端の研究の成果を反映させ、ワクワクさせる環境を作る。例えば情報理工の研究技術を使って、南草津をサイバータウンにする。研究の成果や学生のアイデアを街やキャンパスで実現できれば」と話した。松原氏は、教育の質の向上を挙げ、ラーニングイノベーション、特に初年次教育や海外経験、地域での学びなどの充実が必要だとした。

学生質問の2問目「今後、立命館大学はどのように進むべきだと考えるか」に対し、仲谷氏は、国連が定めた持続可能な開発目標「SDGs」に取り組み、意識の国際化を図ることで、世界が語る学園が実現できると語った。松原氏は「大学の量的な拡大ではなく、教育・研究の質の向上、学部と研究科の横の連携、付属校と大学の縦の連携をより強化すべき。グローバル化に加え、地域連携も行いたい」と語った。吉田氏は『立命館憲章』に則った、地球市民として活躍できる人材育成を挙げた。

最後の学生質問は「多様化する今の学生が、大学に対して求めるものは何だと思うか」だった。松原氏は、質の高い教育、やりたいことを伸ばすこと、キャンパスインフラの整備、ダイバーシティの尊重を挙げた。吉田氏は「ダイバーシティを尊重し、学生を集団ではなく、個々として大切にしていく」と述べた。仲谷氏は、成長できるワクワクする環境、卒業生へのキャリアサポート、生涯誇れる大学であることを挙げた。（吉武）

新総長に選出された仲谷善雄氏は「世界が語る学園を目指す」と語っていた

「挑戦をもっと自由に」Ｒ２０３０始動

学園ビジョンＲ２０２０を受け、急速に変わりゆく社会において、未来のあるべき姿を積極的に提起するべく、本学園は新たな学園ビジョンＲ２０３０を提示した。「挑戦をもっと自由に」を標語に児童、生徒、学生はもとより、教職員、校友に至るまで、個々人がそれぞれの立場から社会の有り様を考える学園像・人間像を定める。

設定された学園像は、「学び続ける社会の拠点としての学園」「人類社会における様々な課題に挑む学園」「ダイバーシティ&インクルージョンを実現する学園」だ。

また、同時に設定された人間像は「チャレンジ精神に満ちた人間」「社会の変化に対応し、自ら考え、行動する人間」「グローバル・シチズンシップを備えた人間」である。

「立命館憲章」に謳われた、世界と日本の平和的かつ民主的、持続的な発展への貢献のもと、既成の枠内にとらわれない挑戦を続けていく。それらを実現するために、「新たな価値創造の実現」「グローバル社会への主体的貢献」「テクノロジーを活かした教育・研究の進化」「未来社会を描くキャンパス創造」「シームレスな学園展開」「多様性を活かす学園創造」という6つの政策目標を掲げる。

Ｒ２０２０構想のように、立命館が拠点となって時代を牽引するのではなく、多様なつながりの中で、知の結節点としての役割を担い、直接的な見返りを求めない真に開かれた学園を目指す。

現在の問題点として、組織が大きすぎるために意思決定が遅いこと、各学部がキャンパスごとに振り分けられていることにより、学部を越えた横のつながりが薄いことなどが挙げられている。これらの問題をどのように解消し、今後の構想に結実させていくのかが課題となる。

Ｒ２０３０の一つひとつの具体的な政策はこれから検討されるが、１つの専門分野に捉われない教育システムの構築や地域社会との連携を始め、様々な視点からの柔軟な議論が目下進められようとしている。大規模なキャンパスを持つ本学は、既存の設備をどれだけ有効に活用するかという課題も存在する。今後はなるべく学生や職員などの多様な意見を積極的に取り入れていくという。（藤井）

休講判断より柔軟に

学生の安全最優先

6月18日の大阪北部地震や平成30年7月豪雨で、課題が浮き彫りになった本学の休講基準。本紙6・7月号やWEB限定記事でも取り上げ、全学協議会でも議題の1つに挙がった。今後の休講基準について、本学衣笠教学課に話を伺った。

現行の「立命館大学授業に関する規程」では、第5条の2に「規程にない取り扱いを行う場合は、学長が決定する」と定められている。今後は、「学長判断の幅を広げて対応する」という。現行の規程を改定する判断に至らなかったのは、公共交通機関による運休情報の出し方やその内容、自治体から出される避難情報の発令基準が曖昧であるためだ。

学生と教職員の安全を第一に考慮するため、規程を超えて、学長が休講を判断する申し合わせ事項が定められた。豪雨などにより外出が危険な状態にある場合や、震度5弱以上の地震が発生した場合、洪水や土砂災害などが起こった場合は、通勤や通学に支障をきたす公共交通機関の運行状況などを踏まえ、柔軟に判断する。各キャンパス周辺の地域で避難勧告や避難指示が出た場合も休講とするが、対象地域であっても、発令対象が高地または遠方である場合は、休講判断は行われない。

台風や豪雨など、公共交通機関の運行の乱れ、運休などを事前に予測できる場合は、前日、前々日から確認を取り、学生が通常に通学できないと判断された場合も休講となる。規程にある「当日朝6時30分」を待たずして、休講判断がなされた時点で情報を流すよう変更された。

休講の判断はされないが、自然災害などにより、避難指示が発令された地域に住む学生や、公共交通機関の運行状況が理由で通学できない場合、まずは身の安全を確保してほしいという。授業に出席できない場合には、メールや次回授業で直接申し出るよう案内するとともに、今後はmanaba+Rに申請フォームを設けたり、申請書をダウンロードできるようにしたりするなど、フォーマットも用意される。

自然災害などが理由で授業に出席できない学生がいる場合、大学から教員に「授業配慮の案内」を行い、授業内容や進め方など、欠席したことで成績が不利にならないよう「お願い」をするという。ただし、強制力はないため、その判断は授業を担当する教員に委ねられている。（宮山、鶴）

ゴミ捨て問題　どう対処？

生活をする上で誰もが直面するゴミ出し。購買でお弁当などの食べ物や飲み物を買えば、学内であっても当然のようにゴミが発生するが、無意識にゴミを捨てる学生も少なくない。

本学には多くのエリアに分別ゴミ箱が設置されている。これは２０１５年に京都市の条例にあわせて新設されたもので、鮮やかな色を用いて容易に分別ができるよう工夫されている。

しかし分別の実態は決して良いものとは言えず、また複数の外部団体に委託しゴミの再分別が日常的に行われているため多くの費用と労力を費やしている。ほかにも衣笠キャンパス図書館と学生会館の間に位置するゴミ集積場には無分別ゴミが溢れている。

これらに関して衣笠キャンパス地域連携課の櫻井稔也さんは「一人ひとりが些細な注意をし、自分の出すゴミに責任を持ってほしい」と話す。

今後もゴミの分別が一目でわかるようなポスターを掲示したり、サークルや生協の組合員を対象にゴミの分別説明会を開催したりする予定だ。（岩崎）

分別を色で表したゴミ箱には無分別のゴミが溢れていた

全学協議会開催

休講問題、禁煙化への課題など議論

10月3日、立命館朱雀キャンパスにおいて2018年度全学協議会が開催された。協議会の模様は、衣笠キャンパス、大阪いばらきキャンパス（OIC）、びわこ・くさつキャンパス（BKC）にも同時中継された。

全学協議会は、本学の「全構成員自治」の考え方に基づき、学部生、大学院生、教職員、大学（常任理事会）が、教育・研究、学生生活の諸条件の改善について協議する場である。

今年度は①正課・課外における学びの充実について②留学生を含む国際化・ダイバーシティ・インクルージョンの推進について③キャンパス環境の質向上について④大学院教学の充実について⑤学費提起と2019年度全学協の開催についての5議題が話し合われた。

正課・課外における学びの充実

第1議題では、休講措置の問題について、教育の質向上、試合等参加証明書の運用徹底、課外施設の整備、オリター団など初年次教育の高度化、教養教育改革についてが学友会側から提起された。

これに対し常任理事会の市川正人副総長は「近年の災害の甚大化、通学圏の広域化、公共交通機関の運休決定の早期化が進む中で、学生の安全を最重視しなければいけない。休講判断の基準を検討するワーキンググループを教学部に設置し、学友会との懇談会も行った。そこで新しい休講判断の基準案をまとめ、本学の教学委員会に案を提出して、全学部から意見を集約している。現行では、従来の休講基準規程に加えて、規程に当たらない場合でも学長（総長）の判断によって休講するという2本立てだ。しかし学長判断にも基準がなければ判断することができない。現在学長が休講を判断するための基準を明確化しようと取り組んでおり、秋学期には新基準で対応したい。10月1日の台風の際、前日時点で午前中の休講を決定したのは、実質上新基準に準じて判断したもの」と回答した。

教育の質向上についての課題に関しては、学友会側から「本学の中期計画であるR2020後半期計画では『教育の質の転換』という条項が高らかに掲げられている。そして大学側はその条項の達成を目指し、教員の授業方法を改善していくための取り組みであるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動を推進、教学改革の実施、新しい科目の設置、シラバスの作成方法の改善をしたとしている。しかしこういう改革があるにもかかわらず、授業外学習時間は依然として少ないままだ。授業外学習時間が少ない理由を、授業内において学生の知的好奇心を喚起するような、興味関心を高めるような授業実践がもっと必要なのではないかと考えている。そういった授業が展開されれば、授業外学習時間というのは自ずと増えるであろう、というのが我々の考えだ。それに加えて教学改革が学生の成長にどれだけ役立ったかを示すデータが、現時点において存在しないのは問題だ」という提起があった。

これに対し市川副総長は「シラバスや授業のなかで予習・復習を明確にすることは大前提。そして予習・復習課題については科目全体の中での一定程度の調整が必要なので、各学部に対して調整・検討を現在お願いしている。教学改革が学生の成長にどれだけ役立ったかを示すデータが、現時点において存在しないという学友会側からの指摘は、非常に厳しい指摘だ。しかし、我々常任理事会は教学改革の取り組みが学生の学びの成長実感や満足度にどのように寄与したのかという視点は欠落しているとは思っていない。教学改革の効果についてデータに基づく検証をしているかという点については、授業アンケートの『自主的学習への意欲』『能動的取り組みに対する意欲』の項目で確認し、『向上した』という回答が増加傾向にある。また本学は学びと成長調査というのも大規模に行っているので、そういった多角的なデータから検証していきたい」と回答した。

大学側に問題提起を行う
学友会・山本朔常任委員長（生命4・中央）

留学生支援を含む国際化 ダイバーシティ・インクルージョン

第2議題では、「留学生支援を含む国際化、ダイバーシティ・インクルージョンの実現」として多様な学生が安心して学べるキャンパスにするという「ダイバーシティ・インクルージョン」の実現、学生の海外経験・地域貢献活動に関する課題、留学生に対する日本語教育のカリキュラム構築について、大学内で国際交流ができる施設「Beyond Borders Plaza（BBP）」の活用について、留学生支援として留学生支援コーディネーターの設置、英語で開講する授業のさらなる拡大について、学友会から提起され議論された。

また院生連合協議会からは大学のグローバル化対応、英語基準入試で入学した大学院生の対応、留学生の生活問題を担当する窓口が周知されていないという問題、利用時間延長について、学友会から喚起・報告された。

キャンパス禁煙化に関しては、学友会から「本学では2013年から全面禁煙化が実施されているが、隠れて喫煙している学生がいる。卒煙支援エリアは、建前としては煙草を吸ってはいけない場所となってはいるが、実態として喫煙所になっている。また保健センターの調査によれば、学生の喫煙率はおおむね減少傾向だが、学友会の学生アンケートでは、受動喫煙の影響を受けていると回答した学生は非常に多い。このため、受動喫煙の防止徹底、キャンパス禁煙という手段については再検討していく必要があるのではないか」と山本朔常任委員長（生命4）が提起した。

これに対し松原豊彦副総長は「この問題はキャンパスごとに大きく状況が異なる。卒煙支援エリアの数やどこに置くかということは、キャンパスの状況に応じて適宜見直しを行っていきたい。また新たな喫煙者を生まないように、啓発・教育といった取り組みを進めていく。保健センターでの卒煙支援を引き続き推進したい」と強調し「2020年までに現在の本学の学生の喫煙率を4％から2％に減らし、喫煙率2％の状態を3年間継続できれば、卒煙支援エリアは撤去していく」という全学禁煙化推進委員会の方針を明らかにした。その上で「実行するとなると相当困難な課題。大学としては今まで以上に力を入れて指導していきたい」と答弁した。また吉田美喜夫総長は「煙草の依存性は強く、吸い始めるとやめるのは難しい。このため喫煙をスタートさせないという地道な努力を続けていくことが重要だ。確かに全面禁煙にしながら、遅々として進まないのではないかというのは批判としてわかるが、やはり努力は続けていかないといけない」とも述べた。

キャンパス環境の質向上

第3議題では「キャンパスの質向上について」として、学友会が7月に実施した緊急学生アンケートの結果をもとに、キャンパス改修に関して検討段階で学生にも意見交換の場を設けてほしいという要望、昼食時の食事場所の不足、キャンパス禁煙化に関する課題、空調温度について、試験前の図書館の学習スペースの利用時間延長について、学友会から喚起・報告された。

大学の代表として発言する
吉田美喜夫総長（左）と市川正人副総長（右）

大学院教学の充実

第4議題では「大学院教学の充実について」として学部生の授業や教学活動をサポートするTA（Teaching Assistant）制度の分野・範囲の拡大について、大学院生に対する助成金制度などのキャリアパス支援制度について、博士学位をとったとしても十分に本学で研究できる環境が整っていないという問題、衣笠・OICに設置されている大学院生の研究施設「リサーチコモンズ」において、学部生の騒音やキャンパスツアーで院生が勝手に写真を撮られて迷惑になっているという問題、他方で共同研究室の座席数が少なく横の研究科との間で軋轢が発生しているという問題が院生協議連合会の後山会長から提起され、議論が行われた。

学費提起と2019年度全学協議会

第5議題では「学費提起と2019年度全学協議会の開催について」として、学費提起が単年度の提起になっていることについての議論もあった。学友会からの「来年度の全学協議会においては、2020年度入学者の学費提起だけではなくて、最低でも2020年と2021年のセットで提起をしていただきたい」という提起に対し、吉田総長は「2019年度入学者の学費提起に関しては、発表スケジュールなど日程上の制約に加え、文科省による入学者定員の厳格化、予算の精査、政府が推し進める働き方改革といった大きな外的要因があった。これらへの対策の議論がされていない段階で、学費提起をすることは相応しくないという決断をした。学費提起に対しては複数年度提起するよう多数の要望があることから、2019年度に提起する次期学費政策を2020年度、2021年度の2年間とする。また、2030年に向けて2021年からスタートするR2030の中期計画と、財政運営の基本方針策定後の2021年度に提起する学費政策については、4年のスパンで提起するようにしていきたいと考えている。その場合、ただ4年間の時間の推移を見るのではなく、中間点検の内容も、今後検討をしていきたい」と発言した。

協議会の最後には「議論の評価」が各パートより行われた。山本常任委員長は「我々学友会は『想いをカタチに』を理念に活動している。緊急学生アンケートに答えてくださった学生がいて、全学生3万2600人を代表して、その想いを背負ってこの場に立っている。学生みんなの想いは何かと考えたときに、議論することではなく、結果を求めています。『食堂の混雑がマシになったな』『受動喫煙の被害がなくなったな』『授業が面白いな』。全学協の議論ももちろん大切だが、こういった実感が大切だ。そのような意味で、今日の全学協というのは到達点ではなくて、学生がこの大学に来てよかったと思うところまでは、常に通過点であると私は思っている。常任理事会の皆様には『未来の立命館が輝いてほしい』というこの想いを留め置いてほしい。常任理事会の皆様には非常に厳しいことを申し上げるが、立命館というのはあなたたちだけの立命館ではない。われわれ若い世代も立命館だ。特に私たちは卒業してからも「立命館」という肩書をずっと背負って生きていく。常任理事会の皆様にお願いしたいのは、自分の在任期間のことだけを考えるのではなく、長期的な視点で立命館というのを見つめていただきたい。教学改革というのをぜひとも断行していただきたい。それは関同立だけのレベルだけでいいとか、ちっぽけなことを言っているのではなく、やはり世界の立命館にならなければいけない。そういった気概を持ってやっていただきたい」と語り、評価とした。

吉田総長はまとめとして「熱心な議論に感謝したい。山本委員長からも言われたように、議論をすること自体が目的じゃなくて、そこから結果を出して『学んでよかったな』という実感を持てるようにすることが大切だと思う。大学と学生の皆さんのつながりは在学期間だけのものではなく、生涯のものである。そういう重い責任を、大学は担っているということを常に忘れてはいけないと思っている。全学協は、これを支える広い自治的な議論の裾野があって初めて成り立つ。裾野を含めて大事にしていかなければいけない。改めて皆さんの努力に敬意を表し、感謝を申し上げたい」と全学協議会を締めくくった。

今回の全学協議会の議論をを受けて、現在は確認文書化が行われている。確認文書の調印式は年明けにも行われる見通しだ。

（堀内、吉武）

本紙の創刊はいつか？

学園づくりを支える伝統

本紙の源流は、１９３９年に創刊された『立命館』まで遡る。紙面そのものは確認できていないが、戦後の『立命館学園新聞』一千号記念特集号には「内容も紀元節号に忠臣列伝を特集するなど、禁衛立命の面目をいかんなく発揮している」と書かれ、紙面の雰囲気がうかがえる。

戦争が長期化すると新聞発行も中断したと思われる。しかし復刊は早く、終戦と同年の１９４５年12月に『立命館大学新聞』第１号（以下、旧・立命館大学新聞）が発行されている。内実は全く異なるものだったようである。同年11月に発足した当時の学友会は学長を会長として、大学教員が主要な地位を占めていた。学生で組織される委員会にも、大学教員の介入があったようだ。『旧・立命館大学新聞』の発行責任者も教員の学友会総務部長であり、学友会機関紙としての性格が強かった。

学友会が真の学生自治組織に生まれ変わったのは１９４８年。きっかけには『旧・立命館大学新聞』が深く関わっている。１９４６年11月、学園の民主化を訴える論説記事が総務部長によって削除を命じられる事件が起きた。学園の民主化を推進していた当時の末川博総長も学生たちの急激な民主化への訴えに困惑してか、編集責任者の判断ならば問題はないという見解を示し、学生の反発を生んだ。それまで段階的に議論されていた学友会改組の機運は一気に加速し、翌年の新たな学友会発足に結びつく。

こうして新聞の発行主体は学生のみで構成される立命館大学新聞部（学友会事業部の１機関として位置づけ）に移る。１９５２年に刊行された広報誌『Life of RITSUMEIKAN』には、１９４９年に題号が『立命館学園新聞』に改まったと記録が残る。また、本社規約では設立年月日が１９５０年４月１日とされ、このタイミングで新聞部が新聞社へと変更されたことが推測される。ただしいずれの変更もその理由や過程についての文献は残っておらず、詳細は不明である。

ここまでが「通刊○○号」の紙齢の来歴である。もうひとつの紙齢の誕生には、１９６０年代の学生運動が深く関わっている。

１９６８年12月、「新聞社事件」が発生した。９名の入社希望者が入社を拒否されたことに端を発し、拒否した新聞社員が他大学の学生を引き連れて新聞社ボックスを襲撃し、学生と教職員に百数名の負傷者が出た。この時の新聞社は、過激化した全共闘一派によって占められていたことが後年の記事で説明されている。

運動の機関紙ではなく、学生の声を反映した新聞を発行する新聞社を復興する動きが進む。１９６９年に「学友会新聞社」再建委員会が立ち上がると、同年９月に彼らの手によって『立命新聞』が創刊された（発行名義は「立命新聞編集局」）。この間『立命館学園新聞』は定期刊行を停止しており、立命館大学新聞社は適正な予算執行や編集がなされないことを理由に学友会からも外されている。同年中に、新社員の公募や再建方針がとりまとめられ、翌年の新聞発行が決定する。

１９７０年１月、『立命館大学新聞』の創刊号が「新聞社再建新年特集号」と銘打って発行された。１面の挨拶文には「立命館大学全学の世論を反映する新聞社が、（中略）新しく「立命館大学新聞」を全学のみなさんの手に届けることができたことを誇りに思います」と述べられている。この新聞から、今号で７８７号を数える。

戦禍や学生運動の影響からか、過去の新聞は散逸しているものもあった。それでもかつての紙面には、学生の手で大学を作っていくという強い意志がたぎっていた。民主的な学園を卒業した人々が、世の中の民主主義の屋台骨となる。その思いが新聞づくりの底流にある。民主主義の危うさが指摘される今こそ、この伝統を次代に伝えたい。

本紙は来年、創刊80周年。

● 立命館大学新聞社の歴史

1939.7	『立命館』創刊（その後戦時中中断か）
1945.12	『立命館大学新聞』として復刊
1949	『立命館学園新聞』に改題
1950	「立命館大学新聞社」に社名変更
1968.12	新聞社事件発生
1969	立命館大学新聞社、学友会承認取消
1969	「学友会新聞社」再建委員会発足
1969.12	『立命新聞』創刊
1970.1	『立命館大学新聞』再刊
	立命館大学新聞社再建・学友会復帰
2019	創刊80周年を迎える

本紙の上の方、余白に「○○号」との記載がある。これは新聞が何号発行されているかを示すもので「紙齢」という。普通1つのはずなのだが、本紙には2種類ある。この2つの違いに、本紙が歩んだ歴史が刻まれている。

恥ずかしながら、本紙の歴史は内々でもほとんど共有されてこなかった。卒業間際の筆者が、本紙が読み継がれることを願って、最後の仕事をさせてもらった。（眞子）

台風21号 平野神社に打撃

９月４日、近畿地方で猛威を振るった台風21号は、桜の名所で知られる平野神社（京都市北区）にも甚大な影響を与えた。

強い南風が吹き荒び、貴重な品種を含む桜が20本、根本から転倒し、境内の出世稲荷神社の鳥居も倒壊した。最も大きな被害を受けたのが拝殿で、檜皮葺がめくれ落ち、柱が折れて建物が倒壊した。拝殿は釘を使わない接木で組上げられており、１６５０年に東福門院によって寄進されたもので、府の文化財にも指定されている。

倒れた桜のうち、根があまり損傷していないものは再度埋め直し、老木であったものは撤去した。折れかかった枝は取り除き、風雨に耐えられるよう、添え木を施して補強し、経過を見ていく。ただ、今回倒れた桜は防風林として建物を守る役目を担っていたこともあり、今後の災害対策の見通しは立っていない。

被災後、多くのボランティアが詰めかけ復旧作業が行われた結果、９月14日より、立ち入り規制が一部解除され、境内の一部が参拝可能になった。27日には、鳥居や塀が倒壊していた末社の稲荷社と猿田彦社の参拝が可能となった。

台風が通過した９月５日、本学体育会ボランティア団体ＡＶＡが、境内とその周辺に散乱した折れた木の枝や落ち葉、ゴミ等を１日かけて掃除した。禰宜の小野さんは「スポーツ選手とあって、１日中本当によく働いてくれて、大変助かった」と感謝の言葉を口にした。

神社の再建には、まだまだ時間と費用がかかるため、現在も復興義援金による支援を呼び掛けている。

4本の柱が折れ、崩壊した拝殿

大相撲京都場所 開催

10月17日、本学衣笠キャンパスから徒歩15分ほどにある島津アリーナ京都（京都市北区）で、大相撲京都場所が開催された。

大相撲の巡業が京都で開催されるのは２０１４年に復活してから今年で5度目。

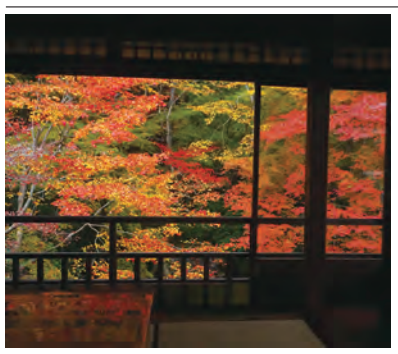
十両力士の土俵入りから会場は盛り上がり、地元の近畿出身の力士が登場すると観客はさらに大きく沸いた。市内から観戦に訪れていた男性（78）、「相撲をテレビで観たことはあるが、生で観るのはこれが初めて。チケットは孫からのプレゼントで、こんな形で来ることができてとても嬉しい」と語った。また家族連れや外国人旅行者と思われる観客も多く見られた。幅広い年代・性別・国の人々が、取組に熱狂した。

11月11日には、大相撲九州場所が福岡市で初日を迎える。（竹中）

土俵入りした力士と観客

古都に広がる 真紅の彩り

晩秋の京都を巡る



瑠璃光院の書院2階から眺める庭園

秋の紅葉といえば「京都」と連想する人も少なくない。日本でも指折りの観光スポットが集まり、寺社仏閣は春の桜だけでなく、秋にも紅く色づき人々を魅了する。この時期になると毎年多くの観光客が国内外から訪れ錦秋の古都を堪能する。平安貴族や武士たちに「やすらぎ」の郷として愛されてきた八瀬（京都市左京区）にある瑠璃光院では日本情緒あふれる名建築・名庭とともにもみじと苔の融合を感じることができる。書院２階の部屋から見える鮮やかな紅葉の景色は観る人の胸を打つ。12月10日まで秋の特別拝観を行なっているので、この機会に心のやすらぎを求めるのもいいだろう。

嵐山（京都市右京区・西京区）の紅葉の見頃は、例年11月下旬～12月上旬となっており観光客数は大幅に増加する。

渡月橋周辺をはじめ宝厳院や天龍寺、常寂光寺などコース設定をして紅葉を楽しみながら歩いたり、嵯峨野トロッコ列車に乗って保津川の渓谷沿いの紅葉を列車内から眺めたりと嵐山に行けば自分なりのプランで紅葉を楽しむことができる。

広大な敷地のなかでも「洛陽の奇観」として知られる東福寺（京都市東山区）の絶景スポット通天橋では、広がる紅葉の中に葉先が３つに分かれる三葉楓（通天モミジ）が含まれており黄金色に色づく。市松模様の方丈北庭も含め境内の建物と紅葉のバランスは職人によって整えられているため完璧な眺めをおさめることができる。観楓拝観は12月２日まで行われる。

徐々に冷え込む京都で文化に触れながら秋の温かみを各所で感じてほしい。

「洛陽の奇観」として知られる東福寺の通天橋

京都鉄道博物館前にJR新駅 利便性向上へ

ＪＲ嵯峨野線・京都―丹波口駅間に新駅「梅小路京都西」が来春開業する。

同駅は京都商工会議所などの要望書を受け、京都市とＪＲ西日本が共同で事業化した。

京都水族館や京都鉄道博物館、梅小路公園など、さまざまな観光資源が集積する「梅小路エリア」。その中心部に新駅が設置されることにより、梅小路エリアの各レジャー施設へのアクセスの向上が見込まれ、１日の乗降者数は７０００人を予想している。

ホームには混雑時や小さな子ども連れの家族が多く訪れる地域特性に合わせ、安全確保のために可動式ホーム柵が設置される。また周辺整備事業として、梅小路公園の再整備や廃止された短絡線を活用した歩行空間、駐輪場の整備が計画されている。

駅舎は「梅小路公園及び京都駅西部エリアの玄関口として、鉄道を意識していただきつつ、地域との連携をはぐくむデザイン」を基本コンセプトとした。公園と調和し地域のシンボルになるよう、京都らしい色彩が用いられる。

なお、同駅新設に伴う列車の増発など、ダイヤの改定は検討中だ。（小板橋）

新駅駅舎の完成イメージ

NHK「朝ドラ」まんぷく モデルは立命館OB

10月からNHKで連続テレビ小説「まんぷく」が放送されている。同番組はインスタントラーメンを発明した本学OBの安藤百福氏とその妻・仁子氏をモデルとした物語だ。物語のヒロイン・福子役を安藤サクラさんが務めている。そして安藤百福氏がモデルの立花萬平役を務めるのは長谷川博己さん。放送に際し、同番組を手がける堀之内礼二郎プロデューサーに話を伺った。（石井）

―安藤百福夫妻をモデルとした経緯は何ですか。

今の世の中は、自分に関わりの無い物はたとえ目に入っても、頭に入ってこないという人が多いと感じています。だから誰にでも関わりがある物でドラマを作りたいと考え、コンビニに入って企画を考えていたところ、コンビニで活気があるのはインスタントラーメンの棚だという話を思い出しました。インスタントラーメンを眺めていた時に、昔、安藤百福さんの漫画を読んだ記憶を思い出したんです。僕も子供の時からラーメンが好きで、出かけるときはカップ麺を買ってもらうのを楽しみにしていたぐらい好きでした。だから百福さんが創業した会社について調べたところ、大阪創業だったのでこれはいけるのではないかと。百福さんの奥さんの情報は少なかったのですが、こんなに浮き沈みの激しい夫の側にいた人だから絶対に面白いドラマになるはずだと思い、取材を進めたというのがきっかけです。

―安藤サクラさんを起用したのはなぜですか。

まず最初に考えていたのは、始まりから終わりまでおよそ30年間にわたる物語を描く予定だったので、ヒロインの福子はある程度年齢を重ねていた方が良いと考えていました。その上でフレッシュさと実力を兼ね備えた女優さん、とチームでイメージを膨らませていく中で、安藤サクラさんにお願いしたいと全員の意見が一致しました。ただサクラさんはお子さんを産まれたばかりだったので、お引き受け頂くのは難しいだろうという覚悟はしていました。それでも、断られても思いだけは伝えたいと思い、連絡を取らせて頂きました。子育てをしながら「朝ドラ」のヒロインをするなんてこれまでなかったことです。サクラさんは本当に悩んだ末、ご家族の後押しを受けて、ヒロインを引き受けてくださいました。その覚悟に応えなければと、僕らも全力で制作に取り組んできました。その思いの力がこの作品の大きな原動力になっていると思います。

―長谷川博己さんを起用したのはなぜですか。

安藤百福さんをモデルとした立花萬平という人物を演じるには、ある種のカリスマ性と人間的な魅力が必要だと考えていました。チームの中で「立花萬平」のイメージを固めて行く中で、長谷川博己さんが演じてくれたらすごく素敵なドラマが生まれるのではないかと意見が一致しました。

―制作の中で、苦労したことはありますか。

朝ドラは1週間に90分、そして半年間放送する番組です。もちろん、撮影を続けていくということの苦労はたくさんあります。ただ、今回は脚本が順調に、しかも高い質でできあがっているので、その苦労が苦にならないと感じています。

―台本が良いというのは具体的にはどのような点が良いのですか。

脚本の福田靖さんは口述で筆記されるので、会話が書き言葉になっていないんです。面白い会話を卓越した役者さん達が演じているので、特別大きな事件が起こっていなくても、会話しているだけでずっと見ていたいと思えるほどです。

―作中でのこだわりはありますか。

会話が面白いので役者さんのお芝居を何よりも大事にするよう心がけています。また、今回は衣装についてもご好評をいただいています。色合いに日本の伝統的な色を使っていて、「日本らしい見た目の鮮やかさ」をとても大事にしています。そして、朝に15分間見る物だということをすごく大事にしていて、1週間の中で流れを作るだけではなく、15分の中で面白い番組にするし、毎日楽しいということを意識しています。

―作中で牧善之介（浜野謙太さん）が馬に乗って登場しますが、善之介を演じる浜野さんが実際に馬に乗る練習をされていたのですか。

事前に馬に乗る練習をして、当日はNHKのスタジオにエレベーターで馬を上げて、馬を撮影セットの中に入れて撮影しました。大阪放送局ではあまりやったことはないですが、馬を使う撮影自体は時代劇で慣れているので、馬を扱うことへの恐怖心は無かったですね。福子の長姉・咲（内田有紀さん）のモデルとなった方が男性からモテて、馬に乗った歯医者さんが求婚してきたというのは実際にあったエピソードです。

―同志社大学でロケをされていますよね。

萬平が憲兵に捕まっているときに福子が憲兵に萬平の無実を訴えるシーンなどで、百福さんは立命館大学の誇るべき偉大な先輩だと思うので、目標にして毎日頑張ってほしいと思います。

堀之内 礼二郎（ほりのうち・れいじろう）

1979年、宮崎県都城市出身。2003年にNHKに入局後、福井放送局に赴任。2007年に東京ドラマ部へ。2012年からは1年間アメリカ・ロサンゼルスでハリウッド流プロデュースを学ぶ。現在は大阪放送局制作部に在籍。連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」「梅ちゃん先生」「べっぴんさん」、大河ドラマ「天地人」「花燃ゆ」、スペシャルドラマ「坂の上の雲」などの制作に携わる。

NHK 連続テレビ小説「まんぷく」

＜総合＞
月～土：朝 8:00 ～ 8:15／昼 12:45 ～ 13:00（再）
＜BS プレミアム＞
月～土：朝 7:30 ～ 7:45／昼 11:30 ～ 11:45（再）
土　：朝 9:30 ～ 11:00［1週間分］

今や生活に欠かせないものとなった「インスタントラーメン」を生み出した夫婦の知られざる物語を描く。何度も失敗してはどん底から立ち上がる「敗者復活戦」を繰り返した末、2人は世紀の大発明へとたどりつく。人生大逆転の成功物語。

＊写真提供：NHK

SUSTAINABLE WEEK
SUSTAINABLE WEEK SUPPORTS SDGs

SDGsの学園祭2度目の開催

10月14日から16日までの3日間、国連が定めた持続可能な開発目標「SDGs」を体験することができるイベント「Sustainable Week」が立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BKC）で開催された。SDGsを学生・地域単位に落とし込んだ本イベントは2017年に初開催され今年で2年目の開催となる。本学でも先駆け的なSDGsの取り組みであり、日本初の学生主体のSDGs体験型イベントとして注目を集めている。

開会式が挙行された14日には滋賀県知事の三日月大造氏をはじめ、学校法人立命館副総長の仲谷善雄氏など、SDGsなどの持続可能な取り組みに理解のある登壇者によるパネルディスカッションが開催された。

三日月知事は幸せという言葉を1つのキーワードにして滋賀県の抱える課題などについて、県と県民が一体となって、滋賀でのSDGsを盛り上げていきたいと語った。

今年度は、イベント開催の1年前からSDGsに関する学習会やワークショップを開催しており、そこでSDGsを知った学生が立ち上げたプロジェクトなど、計29企画が実施された。

イベントでは各企画を担当する学生や学生団体が持つ強みや正課での学びをもとに、自分たちが達成することができるSDGsの目標に向けた企画を実施していた。

中でもSDGsカレーという企画が本年の目玉企画としてメディアから取り上げられていた。このSDGsカレーは今年に開催された朝日新聞社主催の「大学 SDGs ACTION! AWARDS」のグランプリを受賞したアイデアをベースにして「どのような宗教の人でも食べられる誰1人取り残さないカレー」を開発・販売していた。その他にも、花王や滋賀銀行といった企業と協賛したイベントや企画実施も実施された。

また、今年は県内の中学校・高校に所属する生徒らと共に実施した企画も注目を集めていた。この企画は学生団体 Tabiwa+R とNPO法人グローバルの学びのコミュニティ・留学フェローシップ 滋賀キャンプとの協働で開催された。企画の1つが地産地消をベースとした湖魚のおにぎり販売である。この企画は私立近江兄弟社高校の生徒らが琵琶湖の漁師や地元の近江八幡市の農家とともに、中高生に農業を始めとした第一次産業に興味を持ってもらうことを目的に活動を行っていた。もう1つは滋賀県立守山中学校の生徒によるポスター展示である。当企画では少年少女国連大使として活躍する生徒が、自身が作成したポスターやSDGsをわかりやすく可視化したツールを用いて発表を行い、主に子供やSDGsについて初めて知った方に非常に好評であった。

今年のSustainable Weekは既に終了したが、すでに来年度のSustainable Week 2019に向けた実行委員会が発足している。本学における学生主導の先端的なSDGsの取り組みとして、来年度の開催にあたっては、学園祭など学内でのイベント同士で来場客を取り合わずに、共存した展開が望まれる。来年度のイベントにも期待だ。（戸簾）

琵琶湖の魚を使用したおにぎりを提供する様子

開会式（14日）に開催されたパネルディスカッション

BKC 来年開学25年

平成の時代と共に歩んだ歴史

BKC 造成中空撮写真 1993 年撮影
（史資料センター所蔵）

BKC 建設中空撮写真 1993 年撮影
（史資料センター所蔵）

BKC 完成直後空撮写真 1994 年撮影
（史資料センター所蔵）

平成史は、本学びわこ・くさつキャンパス（ＢＫＣ）の変遷を如実に照らしてきた。ＢＫＣが来年で開学25周年を迎えるにあたって、その歴史を紐解く。

平成が始まった１９８９年３月に発表された「21世紀の立命館学園構想」では、理工学部の大幅拡充と財政的自立を目的に、２５００人だった理工学部の規模を新キャンパスの開設によって４０００人規模にまで拡大しようという「新キャンパス・理工拡充」が掲げられた。新キャンパスの選定には、校地面積、交通のアクセス、造成期間、誘致主体の協力などが考慮され、今の滋賀県草津市に決定した。

当時、県内に大学が少なかったことから、自治体が協力することで、高等教育の充実を図る狙いがあった。滋賀県の協力による土地の無償化に相当する額の補助金の提供は、当時画期的な大型公私協力だった。今後も大学教育の特性を活かした地域貢献をしていくことが問われている。（花田）

BKCの歩み

西暦	和暦	
1989	平成1	『21世紀の立命館学園構想』
		校地、滋賀県草津市に決定
1991	平成3	第4次長期計画
1994	平成6	びわこ・くさつキャンパス開設
		理工学部・理工学研究科移転
		『21世紀の立命館学園』
1996	平成8	理工学部 学科増設
1998	平成10	経済学部・経営学部移転
2001	平成13	エポック立命21設置
2004	平成16	新世紀学園構想第1期基本計画
		情報理工学部 新設
2005	平成17	理工学部 学科増設
		テクノロジー・マネジメント研究科（MOT大学院）設置
		セントラルアーク完成
2006	平成18	経済学部・経営学部 学科増設
		経営大学院 設置
		『2010年の立命館』中期計画
2008	平成20	経営管理研究科、朱雀移転
		生命科学部・薬学部設置
2010	平成21	スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科設置
2011	平成23	『R2020』計画
2012	平成24	情報理工学研究科設置
		理工学部再編
2015	平成27	経営学部・MOT、OIC移転
2017	平成29	情報理工学部・経済学部再編
2018	平成30	食マネジメント学部設置

グッズで表現 立命館

「立命館大学を取り巻くすべての人に愛校心と愛着をもってもらいたい」。

この思いから、今秋より「Rグッズプロジェクト」が始動した。

大学生協が販売しているグッズとは別に、本学広報課が主体となり「立命館大学」を表現するグッズを開発、販売する。本学のコミュニケーションマークの「R」や、学園ビジョンの「Beyond Borders」に加え、学生から募集したマスコットキャラクターもグッズ化される。

マスコットキャラクターの募集要項は、HPやSNS、manaba+Rで周知される。募集は在学生を対象に行われ、書類選考、プレゼン選考、最終選考と段階を踏んでキャラクターを決定する。キャラクターには、外見的なデザインだけでなく、性格や特徴、特技などの情報も求められる。自分が思う「立命館」のイメージや、２０３０年に向けた学園ビジョン「R2030」など「立命館」を表すキャラクターを募る。

キャラクター選考にはデザインの専門家が携わり、選考に残ったデザインはSNSなどを通して公開される。1月予定の最終選考では、学生と大学職員の代表が投票し、立命館キャラクターを決定する。3月頃のお披露目が予定され、「Rグッズ」として販売される。（予定時期は取材時のもの）

学生や教職員だけでなく、卒業生や来校者もターゲットとし、旧・広小路キャンパスをモチーフにしたグッズや「京都」を感じられるグッズも販売する。他にも本学と協定を結ぶアシックスやロフトと共同開発したグッズも販売される。「Rグッズ」の収益は、学生に還元される仕組みが検討されている。

「Rグッズ」は、11月下旬にオープンするオンラインショップに加え、入学式や卒業式などのイベントでも販売される。学内でも販売予定だ。（堀ノ内、宮山）

本学も参加
韓国で STUDY IN JAPAN FAIR 開催

9月8日に韓国の釜山、9日にソウルで開かれたSTUDY IN JAPAN FAIRに本学が参加した。このイベントは日本留学を目指す海外の学生が、適切な進学先を選択し、実りある留学を達成できるよう、日本の留学制度などの情報を提供し、日本への留学促進を図るものだ。

本学も留学生を迎えるために、本学を志望する受験生や父母からの相談に直接応えるブースを出展した。イベントには釜山とソウルを合わせて７０１０名が参加。本学のブースの来場者は７３０人を超えた。

国際入学課の白石さんは「昨年度比で１７０名以上来場者が増えており、韓国での立命館大学の認知度は非常に高いと感じた」と語る。

本学では、２０１９年度にグローバル教養学部の開設を控える。今後も留学生増加のため、海外での留学フェアへの出展を積極的に行っていくという。（ユヒ）

本学のブースで相談が行われた

ぐるなびと産学連携協定
食産業・文化の発展目指す

8月9日、立命館大学は株式会社ぐるなびと産学連携協定を締結した。食関連産業の発展を目的に、研究や人材育成の分野で協力することが狙いだ。

研究分野では、ぐるなびの持つデータの活用が期待される。一流シェフの調理技術をデータ化し継承するなど、食文化の発展に資する活動も構想されている。

ぐるなびから講師を招いた科目の開講も検討されている。ぐるなびのネットワークを活用した飲食産業やホテルなどへのインターンシップなども望まれる。

協定締結を中心的にとりまとめた食マネジメント学部の井澤裕司教授は本紙の取材に対し「ぐるなびは教育・文化発展に実績がある。この協定をよりどころに学生に食ビジネスの可能性を見せたい」と意義を語った。（眞子）

RRST 1回生も健闘
キャチロボバトルコンテスト

9月9日、株式会社京都製作所（京都市伏見区）で開催されたロボットアームの制御技術を競うキャチロボバトルコンテストに本学ロボット技術研究会ＲＲＳＴが出場した。

本大会は今年で8回目の開催で、26大学、計40チームがエントリーした。RRSTは同コンテスト初開催より参加しており、今年は3チームがエントリーし、うち2チームが大会当日に参戦した。

それぞれ金沢工業大、大阪大のチームと対戦したものの、惜しくも両チームとも予選敗退となってしまった。また1回生が中心のチームは予選で1度、相手チームと引き分けに持ち込み、初めてのロボットコンテスト参戦ながら健闘した。今回彼らが作成したロボットは、前年に先輩が作成したロボットをベースに、新たに開発したロボットアーム部分を装備し、実践用に調整されたものとなっていた。

その後、様々な団体チームによるエキシビションマッチが実施された。最終的にはRRST HDチームが審査員特別賞を受賞し、大会の幕を閉じた。（戸簾）

試合に挑む1回生が
中心となっていたＡチーム

文化と地元の店つなぐ
「らしく長岡京」

「らしく長岡京」とは、長岡京市の観光を様々なコースの地元の住民と交流しながら体験しようという取り組みで、今年の4月に長岡京市のまちづくり女子会から発足した。

体験ツアーでは、地元の商店との交流と寺院などの文化の両方を体験できる。10月20日に行われた「職人が教える和菓子づくり体験」では、光明寺の中を僧侶から案内された後、信楽庭という庭を目の前に構えた部屋で地元の和菓子屋「喜久春」の店主から説明を受けつつ和菓子づくりを体験した。参加者は「作るのは難しいが楽しかった」と語り、和気あいあいと互いの和菓子を見せ合っていた。

企画した樫村恭子さんと小笹清さんは、「文化にも触れながら地元の人たちが活躍する場を作りたかった。地元のお店とお寺などの長岡京の文化の、両方の相乗効果になれば」と語った。

現在の利用者は中高年の女性が主だが、若者の参加も期待している。大学生へのおすすめは古墳ピクニックだ。長岡京市のお店を回って古墳がモチーフになったグッズなどを見た後古墳でピクニックを行うツアーで、11月24日に開催される。

和菓子作りを体験する参加者

立同戦 勝利を鷲掴み
辰己の活躍光る

10月20～22日、わかさスタジアム京都（京都市右京区）において、関西学生野球連盟秋季リーグ・対同志社大戦、伝統の「立同戦」が行われた。本学は1―4で初戦を落としたものの、第2戦に8―6、第3戦に11―2で勝利し、勝ち越しを決めた。また辰己涼介選手（産社4）が打率3割7分5厘で自身初となる首位打者のタイトルを獲得し、3季連続4度目のベストナインに選出された。

辰己の勢いは止まらなかった。ドラフトを控え一挙手一投足が注目される中、いきなり初戦から魅せた。4点差で迎えた9回裏の第4打席、セカンドへの内野安打で出塁すると、二盗三盗と立て続けに成功させ、味方の犠牲フライで生還した。チームの完封負けを防ぐ意地の1点であった。

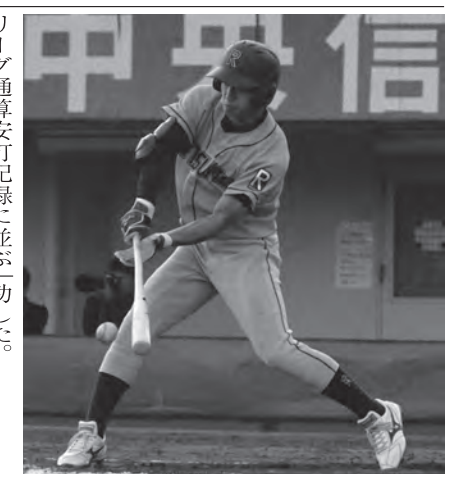
第2戦目は1打席目から同点に追いつくタイムリー内野安打を放つ。6回には、辰己の安打と盗塁をきっかけに二挙5点を奪い、チームの勝利に貢献した。第2戦を終えて、辰己は歴代2位の120安打を放っており、元メジャーリーガーの田口壮氏（関西学院大出身）が持つリーグ戦通算安打記録にあと3本まで迫っていた。

注目の第3戦、辰己は2安打を放ち、迎えた最終回。これが大学最後の打席だ。初球をフルスイングするも打球は無情にもセカンドゴロ。あと1本としながら、リーグ通算安打記録に並ぶことはかなわなかった。

試合後、辰己は「4年間、自分の全てを出し切った。最後の1年は本当に楽しんで野球をすることができた」と笑顔で振り返った。この3連戦で辰己は14打数7安打、4盗塁の大活躍を見せ、プロ入りへのアピールに成功した。

本学硬式野球部は秋季リーグ戦を8勝4敗の2位で終え、2季連続の優勝を飾ることができず、悔しい結果に終わった。

4回生が卒業し、チームの主力選手が入れ替わる中、来季はどのような戦いを見せてくれるのか注目だ。（森島）


安打記録更新はできなかったが、試合後は満足の表情を見せた

ゲームの国際的学術大会
立命館で開催へ

日本デジタルゲーム学会は、来年8月6日から10日に行われるデジタルゲームの国際的学術研究発表大会「DiGRA2019」を本学で開催すると発表した。基調講演としてゲームクリエーターで慶応大教授の水口哲也氏とeスポーツの世界的権威でマサチューセッツ工科大（MIT）教授のT・L・テイラー氏の登壇が決定した。DiGRAとは Digital Games Research Association の略で、世界のデジタルゲーム研究及び普及発展を目的に設立されたデジタルゲーム学会を意味する。

本大会は、これまで世界中のゲーム研究者が集い、研究成果の発表ならびに交流の場として各国で開催されてきた。来年の開催国は日本で、任天堂など日本を代表する大手ゲーム会社が誕生したゲーム揺籃の地であることから開催地として京都が選ばれた。

本学は、これまで国内に先駆けてゲーム研究を積極的に行なってきた。日本では、長らく「ゲーム」が研究対象になると認識されてこなかったが、2011年にはゲームの分野における日本で唯一の学術的機関として立命館大学ゲーム研究センターを初めて設置し、大学におけるゲーム研究の道筋を開いた。同センターでは、国内外におけるゲーム産業の総合的研究やゲームの社会的・教育的応用の可能性などの研究や、ゲームのアーカイブ化を進め、研究や社会的に利活用することを目的とする「ゲームアーカイブ・プロジェクト」などを主に行っており、成果を挙げている。センター長の上村雅之教授はファミコンを開発するなど日本のゲーム発展に大きく寄与した人物。

ゲーム産業はいまや世界経済にとって重要な産業の1つに発展を遂げており、その依存性や性格に与える影響など様々な問題も孕んでいる。そのため、ゲームを学問的に研究する意義は大きい。「eスポーツ」競技などマルチエンターテイメント志向が世界的に広がるなど、新たな方向に向かいつつある。そのことを含めて、今後のゲームの未来についてどういったことが話し合われるのか期待が高まる。

ハードル低い本学の休学制度

大学生活の中でさまざまな理由で学生は休学することがある。

本学では休学費は半期で5000円と定めている。周辺の私立大学に比べて圧倒的に低額に抑えられている。現在の休学者は全学生の約2%である。その期間授業料がかからない利点はあるが、卒業が遅れる可能性があることを理解し、慎重に決めるべきである。また休学の理由の多くは経済的理由や海外渡航であるが、奨学金等の支援制度、正規の留学プログラム等もあるため、それらを事前に確認することをすすめる。

休学の具体的な手続きやその他の詳細は、それぞれの学部の学修要覧やmanaba+Rを確認してほしい。（水谷）

オープンキャンパス
全国から参加者集う

8月4、5日に本学のオープンキャンパスが開催された。

今年は3キャンパス同時開催で、来場者は衣笠キャンパスで1万1092人、びわこ・くさつキャンパス（BKC）で8049人、大阪いばらきキャンパスで6450人を数えた。BKCでは前年比111・1%と来場者数を伸ばしたが、他2キャンパスは約10%減だった。

当日は模擬講義やキャンパスツアーの他、学生が登壇する企画も行われた。

参加者対象の本学への志望度変化についてのアンケートでは、全体の78・6%が「向上した」と回答した。福岡県から参加した高校3年生の男子は「大学や学生に活気がある。京都らしく国際的な大学なので視野が世界に広がりそう」と目を輝かせた。

入試広報課は「全国各地からの学生と学ぶ環境」を目標の1つに掲げ、オープンキャンパス以外にも、入試説明会を全国各地で開催している。また、来年度一般入試は全国33箇所の試験会場で実施する予定だ。（小板橋）

学校説明を受ける参加者

連盟祭開催
応援団 演舞に笑顔の花咲かす

今年で39回目になる「連盟祭～四雄の宴～」が9月12日、京都駅ビル室小路広場で開催された。この催しは、普段ライバルとして切磋琢磨している関関同立4校の応援団が、合同演舞などを披露する毎年恒例のイベントだ。

各大学が力強い演舞演奏を披露する中、立命館大学応援団は吹奏楽部、チアリーダー部、そしてそれら2つの部から構成されたエンジ隊という団員らが迫力ある演舞を見せた。

エンジ隊は応援団に必要な太鼓や団旗を用い、本学応援団独自の集団だ。今年の団目標に「咲」を掲げており、ステージでは文字通り観客の笑顔を咲かせた。フィナーレをかざるコンバットステージでは、連盟祭でしか見られない関関同立4校の応援団による合同ステージが披露され、盛り上がりは最高潮に達した。

今年は大型台風の影響で例年よりも合同練習の時間が短かったにもかかわらず、4校は息の合った演舞演奏を披露した。（今嶋）

関関同立の応援団が合同演舞を披露した

女子相撲 世界選手権 準V

7月22日に台湾で行われた世界女子相撲選手権にて、本学相撲部の今日和さん（国関3）が無差別級で準優勝を果たした。

今さんは「自分には出来過ぎていると思うが、あと少しだったので優勝したかった」と悔しさをにじませたが「初のシニアの世界大会でこの結果だったので、来年は優勝をしたい」と力強く語った。

取組については「全体的には自分らしい相撲が取れたが、決勝戦の相手のロシアの選手は身長が高いので廻しを簡単に取られた。相撲部の男子より背が高いので、感覚が掴めなかった」と振り返った。一般的に相撲は腰が低い方が有利と言われているが、外国人選手にはそういったセオリーは通用しないという。

今さんの取り口は基本的には押し相撲だが、廻しを取っての四つ相撲もできるオールマイティーさが強み。来年は4回生となり、大学生ラストイヤー。学生としての競技人生の千秋楽を白星で飾ってほしい。（石井）

表彰式で笑顔を見せる今さん

さわやかな笑顔が 採用通知 合否 の決め手!!

面接の 実は見られている! 好印象。ポイント
☑手入れをした髪
☑パリッとした服装
☑笑顔が映える歯
☑清潔感のある爪

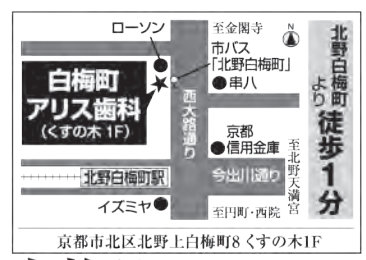
歯の変色や歯茎の黒ずみが気になる方
審美歯科
希望に応じて様々な治療法をご提案!

すきっ歯など歯並びを綺麗にしたい方
歯列矯正
カウンセリング無料! 即日見積OK!

前歯を治療するだけでもグッと印象がかわります!
面接では、自信に満ちた自然な笑顔は、面接官に好印象を与えることでしょう。魅惑的な笑顔の大きなポイントは白い歯と美しい歯並びにあります。高度な技術を取り入れたアリスデンタルクリニックの審美治療で、理想の歯と眩しい笑顔を手に入れましょう。

欧米では歯並びが悪いことはマイナスイメージに!
海外のビジネス界では「歯並びが悪いと出世しない」と言われるほど、歯並びが重要視されています。国際化が進む中、日本でも歯列矯正の需要は急速に高まっています。面接時にチェックポイントにする企業も増えているとか…。当院では、カウンセリングからアフターケアまで担当医が責任を持って行います。

大阪大学歯学部医師チームによる最先端の治療 歯並び すきっ歯 クリーニング



京都市北区北野上白梅町8 くすの木1F

白梅町 アリス歯科医院
アリスデンタルクリニック グループ
京都(四条大宮・白梅町)・東京・名古屋
まずはお気軽にお電話ください!!
075-462-8211
無料カウンセリング 受付中!!
http://www.alicedental.jp

立命館大学学園祭２０１８
貪欲に楽しめる「祭」へ

今年度の立命館大学学園祭は10月14日、11月11日、11月25日の合計3日間、近畿3府県を股にかけ開催される。スタートを切ったのは、開設から4年目の大阪いばらきキャンパス（ＯＩＣ）。2日目は京都に位置する歴史と伝統の衣笠キャンパス。ラストを飾るのは自然豊かな教育・研究拠点のびわこ・くさつキャンパス（ＢＫＣ）だ。個性豊かな3キャンパスに足を運んで、本学ならではの学園祭を楽しんでほしい。

学園祭実行委員長・鶴田大輝さんインタビュー
「非日常感」体感して

学園祭実行委員長の鶴田大輝さん（法4）は「多様な団体によるパフォーマンス」を今年度学園祭の特徴の1つにあげる。各キャンパスのステージでは、学生が日頃の活動の成果を披露し、設営や音響も担う。学部学科の専門分野の枠を超えて学園祭を作り上げる。

ＯＩＣ祭典の「Ｒスポーツフェスティバル」では、体育会が様々なスポーツと触れ合う機会を来場者に提供し、大盛況となった。ＢＫＣでは理系学部が集約する特徴を活かし、様々な理系サークルが実験を通して子どもたちに科学の楽しさを伝える。

学園祭実行委員長
鶴田大輝さん（法4）

鶴田さんは「伝統のある団体から、最近力を伸ばしている団体まで本学には様々な団体が存在している。そういった団体の演技やパフォーマンスをぜひ見ていってほしい」と語る。日々の活動で団体が積み重ねてきた成果を発表する場でもある学園祭。来場者にとっては自分の可能性を広げる場所になる。

鶴田さんは「リッツブラザーズと一緒に、ぜひとも非日常を楽しんでください」と意気込みを語った。（吉武）

3祭典の彩り ロゴに

今年度の学園祭テーマは「学園祭を運営する人、パフォーマンスをする人が、貪欲に活動に取り組み、学園祭に参加する人に全力で楽しんでほしい」という意味を込めた「Be hungry.」だ。

ロゴのデザインは立命館大学新聞社の吉武莞さん（情理3）が考案。学園祭という「祭」の「旗」をイメージした三角形と、キャンパスごとのイメージカラーをあしらって、祭典全体での統一感や3キャンパスでの祭典開催を感じられるデザインとなった。

Be hungry.

ロゴキャラクターはペンギンの3兄弟
「リッツブラザーズ」

ロゴキャラクターの「リッツブラザーズ」
左からOscar（オスカー）、Kevin（ケビン）、Billy（ビリー）

5月末に学生から一般募集された学園祭のロゴキャラクター。２５００票以上が集まった学内投票の結果、親しみやすいキャラクターとして選ばれたのは、増井萌さん（文3）が考案した「リッツブラザーズ」だ。

3キャンパスの頭文字「Ｏ・Ｋ・Ｂ」を持った彼らは、長男のKevin（ケビン）、次男のBilly（ビリー）、三男のOscar（オスカー）の3兄弟。

増井さんは「立命館大学が成長して素敵な大学になればいいなという思いから、コウテイペンギンの赤ちゃんをモチーフにした。学園祭では存分に盛り上がり、来場者の方にも存分に楽しんでほしい。リッツブラザーズが少しでもその力になれれば嬉しい」と話す。

ペンギンの3兄弟が学園祭に花を添えてくれそうだ。

衣笠祭典・BKC祭典　見どころ紹介

衣笠祭典

Be hungry.
11.11 SUN

学園祭2日目は衣笠祭典。歴史ある都・京都で行われるこの祭典は「京都クロニクル」をコンセプトとする。

衣笠キャンパスは１００以上の団体・サークルが拠点とする文化的で個性豊かなキャンパスだ。屋外では模擬店が並び、屋内では様々な催しを見て楽しむことができる。

一番の目玉となる中央ステージでは、ステージテーマとして「Colorful」を掲げ、出演団体のカラーを最大限に引き出した鮮やかなパフォーマンスに注目だ。エンディングでは「sparkle」をテーマにダンスサークル「舞style」による光とダンスのコラボレーションステージが披露される。また観客との距離の近さが魅力の西側ステージでは、歌やダンス、古典芸能など様々なパフォーマンスを見られる。

また、謎解きお化け屋敷企画「洋洋病棟～私の心臓を探して～」やキャンパスを駆け回って謎を解く謎解きバトル「ＶＳリッツブラザーズ」など豪華景品が当たる企画もある。

衣笠山を臨むこの地で、学園祭の歴史に新たな1ページを刻む。

BKC祭典

Be hungry.
11.25 SUN

BKC祭典では、にぎやかな・鮮やかなという意味をもつ「Lively」をコンセプトに掲げ、学園祭のフィナーレを飾る。

ＢＫＣでは、広大な面積を活かし、音楽系団体をはじめとした様々なサークルが、伸び伸びと活動している。関西最大級の迫力あるセントラルステージや、ビーイングステージなど構内各所で学生たちの魅力的なパフォーマンスが見られる。

学園祭の花形とも言える模擬店やフリーマーケットなども約60店舗が軒を連ねる。構内各所で学生が趣向を凝らした様々な店舗が出店する。

このほか広大なキャンパスを活かしたラリー企画「リッツワールド」などさまざまな催しが予定されている。

最大の見所はフィナーレの花火だ。音楽に合わせ、約10分間、幻想的な花火がＢＫＣの夜を彩る。

今年度の学園祭のフィナーレを飾るＢＫＣ祭典。広大な敷地を活かし、他のキャンパスにはない大規模でにぎやかな学園祭で「非日常感」を体感してほしい。